

---

# ～ あっぱれ、俺の異世界譚～

やってみよう会

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゝあっぱれ、俺の異世界譚ゝ

### 【Nコード】

N25980

### 【作者名】

やってみよう会

### 【あらすじ】

展開早すぎ異世界コメディー！！っす！

ある朝、久しぶりに幼馴染に出会い、すぐ異世界に・・・ってええええー！！

じよ、冗談はよしてエエって感じです。

はい、勇者は相変わらず役立たずです。

TSものも交じってます。主人公最強です。

苦手な人は戻って下さい・・・。

できれば、まあ、見てって下さい！待ってます！

**展開早あ！！！な、プロローグ（前書き）**

気づいていると思いますが三作目です。

逃げ道作ってすみません！

あと、見て下さってありがとうございます！

## 展開早あ！！！！な、プロローグ

いつものように学校へ向かう。

一人で遅刻・・・なんと清々しい・・・。

なんかむなしいな・・・はあ・・・。

とんとん

誰かが肩を叩いた。

あれ？誰もいなかったはず？？

「誰！？」

「誰って、ひどいなー一文字 <いちもんじ> だよー」

「フツ生憎一文字という人を俺は知らんよ」

・・・いや、マジで。

「ほんとーに久しぶりだねー」

「知らん、そして語尾に <をつけるな・・・気色悪い」

「キシヨいゆーな！ってかマジで忘れてる？」

「だから知らねーよ！」

「一文字結城 <いちもんじ ゆうき>だよー、思い出してよー」

友達の名前は全部覚えているはずの俺がナナメ後ろでナーナー言っているふつふのヴァカよりヴァカな奴を忘れるはずがない。

「おーもーいーだーしーてーよー千秋 <ちあき> 君ー」

「何故俺の名前を！？・・・。」

・・・ん？

もしかして・・・

「ユウキチ・・・？」

「そう！ってそれはやめてと言っているじゃないか」

「そゝだったのか・・・ヒサシブリー」

「何故片言なんだよ？」

・・・もしかするとこいつが居たらめんどろ事になるから忘れたのかもしれない。

そしていきなりだが目の前に魔方陣らしきものが！？

「なんだ！？」

「えっ？えっ！？なに！？」

ゴゴゴっというような効果音が！？

「逃げ・・・れない！！・・・なら一緒に！！！」

「わわっ！！や・・・やめろ！！！！！」

こうして感動の再開（？）をとげてはや12秒で異世界旅行に出たのである！！たっただすけて！！！！

2話に続く！！！！

展開早あ！！！！な、プロローグ（後書き）

まず、ggggdですいません。

こんなのが続きますが、応援よろしくお願いします。

またまた早あああ！！な展開の二話（前書き）

続きです！

では、どうぞー

## またまた早ああ!!な展開の二話

「っは!!」

目が覚めると隣にユウキチ（全自動面倒事収集機）がいた。

「おいっ起きろ!」

「あと五分」

イラッ!

「起きろよ!!」

「あと16538分」

「長っ!?つてか起きてるだろ!!」

「zzzz……」

イライラッ!!

「お\*き\*ろおおおおお!!!!!!」

「ぎゃああああああああああああああ!!!!!!!!」

チュドゥゥン

「っは!!ここはどこ!?!」

「やっと起きたか・・・はあ」

ここはどこだ?何が起きたんだ?

「うるせ〜な・・・誰だ？」  
『！』

隣に知らん奴が居た！！

しかもイケメンだ・・・イラッ

「俺はかんざき神崎 ちあき千秋だ」

「僕はいちもんじ一文字 ゆづき結城だよ」

「俺はしばた芝田 りくお陸雄だ」

「あ・・・あのお」

『！』

今度は背の低い（というか俺らが祭壇っぽい台に居るからそう見える）少女がいた！

・・・『美』少女だった！！

「ここはどこだ？」

陸雄とか言う奴が聞いた

俺？放心状態ですよ？

「ヴァルシア城の召喚の間です、勇者さ・・・ま・・・？」

「どこ〜それ〜」

「あ・・・あの、誰が勇者か調べさせてください！」

ゆうしゃ？うゝあるしーあ？何それ食いもん？

ごめんよく分からんし着いていけん

三話に続く！！！！

またまた早あああ!!な展開の二話(後書き)

ggggggですいません・・・。

ここにきて主人公設定！（前書き）

こんな感じです！

駄文ですいません・・・。

## ここにきて主人公設定！

主人公（など）設定

神崎 千秋《かんざき ちあき》

年齢 17歳

性別 男

外見 中の上（そう思っている・・・チクショウ！）

どこにでも居る高校生（？）。だが異世界に召喚されて帰れなくなる。

しかし、結城と力を合わせて生きていく強い人物。爺さんから我流を習っている。じっちゃんオリジナルの技だ。

神様に力を貰うのは、もう少しあとの話である

スキル

悪運EX

たとえ隕石が落ちてきても生き延びる

一文字 結城《いちもんじ ゆづき》

年齢 17歳

性別 男

外見 上の上

明るすぎな普通のヴァカよりヴァカな高校生。だが異世界に召喚されて帰れなくなる。

実は神様から力を貰っている。もとの世界ではお金持ちである。

能力

ヘブンキャンセラー

死んでなければ例え腕を失っても、もどつりにする。

魔法のように小さい光の球が傷口を被い、完璧に治す。

某カエル先生の二つ名だけをパクらせてもらいました・・・。

スキル

K Y（空気読めない）

例え金がなくなつてテンション低くても晩御飯などの話をする

全自動面倒事収集

何でもかんでもどんなことでも面倒事なら何でも来る。

芝田 陸雄《しばた りくお》

年齢 17歳

性別 男

外見 上の上

どこにでも居る普通の高校生。だが異世界に召喚されて帰れなくなる。

と言うよりも本人が望んだ。

神様から力を貰った。そのため、自分が主人公だと思っている。

若干中二病・・・いや、もう手遅れかもしれない。

魔力

一番多い王族の魔力よりも多い  
数値化すると

100000000ある

(王族は100000000である)

病名

中二病

頭に花畑ができてしまってる・・・。

三話に続く!!!

## ここにきて主人公設定！（後書き）

誤字や間違いがあったら言って下さい・・・。  
お願いします。

あと、ここまで読んでくださってありがとうございます！  
まだまだ続きます！

11/3 少し変更しました。ごめんなさい。

誰が勇者なんだ！?!?!?

あゝ読んでくれている諸君、俺は魔法あり剣ありの異世界に来たらしい。

で、今魔力測定器とやらが目の中にあるのだが・・・。

「・・・水晶玉？」

「はいそうです！では、これに触れてください！」

「よし、俺がやる」

あっイケメン君からなんだ。

・・・そして全員やり終えた。え？途中経過？ひたすらイケメソがうざかった・・・。

俺はいたってH E I B O N Nだったよ・・・。平民の魔力は10・・・。

ユウキチは兵士より少し上・・・。兵士の魔力は100・・・。  
んで、陸雄（イケメソ）は一億だつてさ・・・。

「理不尽すぎる!!!!!!!!!!」

「えっ？」

あっ、イケメソが笑つてる・・・。イケメソシネEEEEEEEE  
EEEEEE!!!!!!

「な、なんか黒いオーラが出てるよ」

おっといけね・・・。ってお前もイケメソじゃん・・・。これだから  
イケメソは・・・。

「それじゃあ、陸雄様が勇者でその付き人が、千秋様と結城様ですね」

「これからまかせろ！俺が勇者だ！」

「付き人ではない、というか元の世界に返せ！」

「無理です。1年くらいしないと大きな魔力は回復しません。すいません。」

「……………」

勝手に呼ばれて魔王倒せ！だなんて無理だな。こっちの都合も考えてほしいもんだ。……畜生め！

「ぼくも付き人じゃないけどがんばるよ！」

なにをだよ！

こうして俺たちは一日目を終えるのだが……。

なぜあいつ等は美女が案内して俺はおっさんなんだあああああああああ……！

しかも、思いつき『倉庫』って書いてあるよ！？

あいつらは豪華なベットで、俺は埃かぶった床で……って何この理不尽はあああああああ……！！

その夜、俺は本を借りて文字を覚えた。

メニア語って言うらしい。

英語と似ていたから覚えれたぜ……。疲れたけど……。

今話しているのもメニア語らしい。日本語をしゃべっているつもりなんだが……。

話し合えるならまあいいか。

4話に続く!!!

誰が勇者なんだ!?!?!? (後書き)

ggggdですいません・・・。

こんな感じで続くんでそれでも見る人には感謝、感謝です!

それぞれの思い・・・？（前書き）

今回こそお覚悟ですのだから・・・。

それぞれの思い・・・？

SIDE 陸雄

俺は異世界に行きたかった。なぜかって？

モテモテなのはいいけど、まわりはレベルが低いわけなのさ！

そしたら神が現れた！

「異世界に連れてってやる。あと、チート能力もつけてやるZE」

「あ・・・ああ、ありがとう・・・。」

「じゃ、次会う時は魔王にやられた後か、それとも倒した後か。楽しみにしているよ」

何故かは知らんがラッキー！！

「あ、あと他の人も連れて行くけど、なぐに勇者は君なんだし。がんばってね」

そしてここに来たんだ。他の二人は糞だった！魔力弱wwははは！！  
今はハーレム状態で困ってるwwふははははは！！！！

魔法騎士団隊長、マリー＝アルセスちゃんと

魔法隊隊長、エリー＝アルセスちゃん。姉妹そろって魔法のエキスパート！んで美少女ww

そしてお姫様のエリカ＝ヴァルシーア＝クラーニーちゃん！！！！

今は居ないけど絶対俺についてくるさww

あはははははあっははあっははははwwww！！

SIDE OUT

SIDE 結城

本当は千秋君と会えたら一杯遊ぼうと思ってたのに……。シヨボ  
〜ン

ぼくがお金持ちだったせいで友達が出来なかった時、ぼくん家に乗り込んだ人が居たんだ

それが千秋君。色々あったけど千秋君に助けられてばかりだった。

ここに行く時に神様に会った。力を貰ったけどあんまり目立ちたくないから地味なのを貰った。

死んでない限りなんでも直せる+何でも殺せる毒の呪文を貰った。言霊を使うから(魔力は使わないから)魔力は少ないらしい。

そしてここに来ただけど、千秋君は神様から力を貰ってないらしい。

ぼくたち、これからどうなるんだろう。

あつ隣に居る子はサン＝ヴェルテーヌちゃん、反対にアーチエ＝ベネッセちゃんだよ。

サンちゃんは魔法騎士団の副隊長なんだって。

アーチエちゃんは魔法隊の副隊長だって。

すごいね。でも、千秋君の方が強いよ！

だって、刀持った人とか、銃持った人と戦ったことがあるんだって！

あつそろそろ寝るね。お休み。

SIDE OUT

5話に続く!!!

それぞれの思い・・・？（後書き）

グダグダですね。・・・すみませんでしたあああああああ！！！！！！

（作者）

夢の中へくそジジイイイ！！！（前書き）

これから少しggggdになります。

と言うより、一話目からだけど・・・・・・・・。

夢の中くのくそジジイイイ!!!

夢の中。

そう、これは夢。

わけ分からん。なんで真つ白な世界に居るんだ？  
辺り一面白白白白白白白白人白白あれ？

「誰!？」

人がいた方に勢いよく振り向く  
思わずこけ・・・てない？あれ？

「わしか？わしは、神だ!」

・・・えくと救急車は何番だったけ？えくとたしk「頭は逝  
つとらんわ!」・・・はあ。

「で、何故俺がここにいる？」

「それは・・・だな・・・。まず、異世界に連れてったのを謝らせて  
くれ。すまない。」

「はあ？」

意味わかめ・・・じゃない、わからん。

「本当は二人にするはずだったんだが、すまない。間違いをしてし  
まった。」

「んじゃ、元の世界に戻してれんのか？」

・・・まあ、答えは予想がつく  
「無理じゃ」

「よっしゃ!! 帰れ・・・ねえのかよ!!」

「あれ? 予想がついてたのでは?」

・・・心読んでる?

「うむ。」

「読むなああああ!!」

「す・・・すまない。」

それで、力を与えようと思うて・・・。」

「わかった。・・・はあ。まかせるよ・・・。」

「んじゃあ、戦場のヴァ○キュリアの力と、鋼の錬○術師の力ね」

「え?」

「ヴ○ルキュリアの力は女性しか使えないのか・・・じゃあ使うときは性転換するようにして」

「えあ?」

なんか凄い事聞いたような・・・。(つまり、最初っから着いていない)

「じゃあ、楽しんでお\*い\*で」

「はあああああ!!??」

落とし穴が!! なぬいい!!??

「にぎやあああああ!!??」

「あと、勇者は頼りない奴だよ」

・・・ええええ・・・そんなの今カミングアウトされても・・・。

6話に続く!!!

夢の中くのくそジジイイイ！！！！（後書き）

お気に入りに入れてくれた人に感謝しますと同時に、  
こんな駄作を見せてすいませんと、謝罪します・・・。  
まだ、続くんですよしくします。

新たな武器ゲット！！の六話！（前書き）

最近、好きな音楽を聞いてしまつて・・。  
というわけで、おススメの曲です

B l u e   o r   L i m e

残照

歌手は片霧烈火さんです！

## 新たな武器ゲット！！の六話！

「っは」

・・・朝だ。窓から漏れた光が部屋に浮いてる埃を見せる。

コンコン「朝ごはんを持ってきましたよ」

「はい」

・・・もちろん、おっさんだ。

「あつ昨日の本、ありがとう。こんどはこの本ね」

文字を覚えて自分でがんばらなくてはならない。勇者はにやんにやんしてるし（死ねばいいと思った）

ユウキチは忙しいし・・・。はあ・・・。

そう考えつつ、食事に手を付ける。

「はい。では、失礼します。」

「おう」

ボタン

「ん？」

刀？なんで？あつ紙がある。

『やつほゝ神だよ』

この刀はラグ イト鉱石で作られた奴だよ、名前はなから付

けてね

それを抜刀して、体の中のナニ力をそれに送り込むんだよ  
そうしたら性転換してこの世界一の美少女に・・・げふんげふん  
送り込んだあと刀を振り回すと、月 天衝（イメージは黒崎 護  
の技の青色バージョン）みたいのが出るよ

錬金術のほうは、両手合わせて地面に付けければ作れるよ

あとは、がんばれ〜

・・・この紙、捨てよ。

まあ、力を送り込まなきゃ刀はただの青い刀だからいい武器ゲット！

実際に抜くと凄く綺麗な刀身だった。それと、なんか力を感じた。  
これがヴアル ユリアの力か・・・。  
鞘にしまい、両手を合わせる。

・・・。「バチチチ」おおう、刀が出来てた。でも、普通の刀身だった。

よし、訓練場へと行こう！

廊下を歩いてると、前から陸雄が来た。

う・・・羨ましくなんかないもんね！ハーレムなんか作ったら、相  
手を選ぶとき困るじゃん！！

・・・ごめん、少し羨ましい。

「ん？おい、お前！まだ居たんだ！はは！」

・・・なんか、イラつく野郎になってね？

7話に続く！！！！

新たな武器ゲット!!の六話！（後書き）

読んで下さってありがとうございます!!

う、羨ましくないもんね!!の七話(前書き)

少し変更をしました。

すいません。。。作者はすぐ壊れるんで。。。。

う、羨ましくないもんね!!の七話

「ああ、居たとも。」

「へえ、まっ俺の足引つ張らないようにがんばれww」

「お前もな、じゃ」

俺は訓練場に行く

う・・・羨mas(ry

訓練場に着いたが、人が居る。

しゃーないから、じっちゃんから教わった我流の練習でもするか。  
しばらくするとお爺さんだけになり、こっちに来た。

「これはこれは勇者様の付き人様。こんなところで何を？」

「付き人ではないですよ!・・・すこし訓練を」

やつべえ!!この爺さんめっさ強いわ!!殺気がハンパない!!

「!ほう、分かるんですね？」

「分かるから、しまつてくれ!」

「これは失礼」

ふい。やばかった。

「勇者様が戦いを申し込んできましたな。」

「へえ、で、その勇者は期待どおりだった？」

「殺気にも気付きませんでした。こう言うてはいけないのは分かり  
ますが、期待を裏切られましたね。」

「ふうん。」

ま、向こうは平和だったからな

「あのう、少しお願いがありまして・・・。」

「敬語で話さないで下さい。」

「わかった。少しして欲しい事があつてのう」  
「で？」

「試合をしてもらいたい」

ええゝ・・・でも俺も一人の戦士だし、腕試ししてたのじっちゃん  
だけだったし、まあいいか。

「・・・いいですよ」

「では、こっちじゃ」

こうして戦うことになった。

## 早すぎる結果！！！！の8話

「では、行きますよ」 爺

「やってやる！」 千

俺は木刀でお爺さんは刃を潰した剣で戦う

まず我流・切上二連（技名）を繰り出す。切上を2回やって上から下にナナメに切り裂く。その間0.87秒！

うお！！全部受け止めた！！流石！！

我流・突き五重（技名）！！突きを5回やるだけその一つ一つに全体重を乗せる。その間0.62秒！！

お！！ぎりぎり防いだ感がある！！

お爺さんの攻撃！！

上から剣を振り下ろす！！

それを我流・防御陣其の壱（技名）ただ受け流し、必殺技を出す機会を作る！！

・・・すげえ、クレーターが出来てる（・・・；）

そこから剣を振り回す！（超高速）それを後ろに跳び、かわす！

うお！！すかさずお爺さんが剣を俺が飛んだあとの場所に突っ込んだ！！！！

・・・クレーターが出来てる（・・・；；）

だんだんしんどくなってきた・・・。

次で決めることになった。

まあ、お爺さんも疲れて来たんだろうしな・・・。

たった20秒間だったけど、凄く楽しかった・・・。

「我流・必殺、五倍返し！！！！！！」 千

「ぬううううんん！！！！！！」 爺

一倍！！相手の左こめかみに打つ！！  
防がれた！

二倍！！相手の右こめかみに打つ！！  
また、防がれた！

三倍！！相手の鳩尾に突く！！

「ぬおお！！」 爺

よし！次！！！！

「四倍、五倍！！」相手の左・右足に打つ！！ 千

「ぬうう・・・・。」 爺

終わった・・・・。

数分後

「やはり、負けたか・・・・。」

「でも、強いじゃないですか。」

「いや、老いぼれはこれ以上にはならず、あとは弱っていくのみ」  
「・・・・。」

「でも、」

お爺さんは立ち上がる。

その目は、俺のじつちゃんのように諦めていない目だった。

「わしはこれ以上弱くもならん」  
「そうじゃないと！」

俺も立ち上がり握手をした。

9話に続く!!!

## 早すぎる結果！！！の8話（後書き）

応援してくれている皆様、本当にありがとうございます！

## この力のいいところ、悪いところ！の9話（前書き）

前回の戦闘描写がへたくそですいません・・・。

今後、いろんな小説を読みあさって勉強します！

こんな駄文を読んでくれてありがとうござ・・・はい、早く読みたいですね。

では、どうぞ！

## この力のいいところ、悪いところ！の9話

お爺さんは帰った。

訓練場は俺だけになった。

「よし」

例のヴァルキ リアの力を使ってみよう！

刀を抜く。そして、何かよく分からないものを、刀に、送り込む！

青い、炎の様なものが体から、刀から出てくる。

すぐに煙が刀から出てきて、体を覆う。

うお！煙が晴れたとたん、体に違和感を感じた。

え？・・・ええ！？

「な・・・なんじゃこりゃあ！！！！」

声も高くなってる！！

胸が膨らんでる！？

なんてこつたい・・・。

俺はあるものがあるか確かめる・・・。

「・・・うそん・・・。」

なかった・・・。

「まあ、この実験が終わったら男に戻るし・・・。まっいつか。（  
v・:・:・）」

何かこれ性的に駄目なんじゃ？

まあ、まずは名前を付けなきゃ。

・・・青・・・あおか・・・げ・・・青影！！青影にしよう！（じつち  
やんの名前は景雄<sup>かげお</sup>）

「青影、いくぞ！」

力を送り込みながら、一振り！！

《ぎゅおおおおおおおんんん！！！！！！！！！！》

Why?

こ・・・これやばいんじゃない？

刀を鞘にしまう。と、同時に煙が出て男に戻る。

！兵士が来てしまう！！

「ばいなら〜」

戦略的撤退ネ！「（・v・:;:;）」三

訓練場がおじゃんしました。

・・・すいませんっしたあああああああ！！！！！！！！！！

10話に続く！！！！

この力のいいところ、悪いところ！の9話（後書き）

まだまだ続くぜ！この駄文小説！

怪盗チアキ参上!!!の10話(前書き)

相変わらず主人公以外は書けません・・・。  
ど~~~~しよ~~~~;~~~~;

## 怪盗チアキ参上!!!!の10話

SIDE エリカ

はあ、どうもエリカ「ヴァルシア」クラーニーです。  
・・・誰に言っているんでしょうか。

親友のエリーとマリーに聞いたんだけど、勇者様はカッコいいらしい！

いーなー、私は色々あつて顔を見せれなかったんだけど・・・。  
よし！見に行こう！

《ぎゅおおおおおおおんんんん!!!!!!》

え？何？今の音！

「何事ですか!？」

「はっ今のは訓練場からでしょう」

「詳細は!」

「今、調べております!」

えええええええ。。。。

これ、勇者様を見に行けないじゃないですか・・・はあ  
ええい！犯人を突き止めて文句いったるうう！

ん？あれ、誰だろう？

さては・・・勇者様の付き人だな！

ついていこうかn「いましたな!？姫様!!」

逃げなきゃああ~~~~!!

ジイはいつも私を護ろうとするから厄介なんだ

「じゃない！！にげなきゃ！！！！」

SIDE OUT

SIDE 千秋

ヘエッキシエ！！

ん？何か噂されているのだろうか・・・？

まあいいや。今の問題は壊してしまったことと、この能力の事だ。

どうやら腰に挿したまま力を送り込んでも女性になるようだ。・・・

まあ使わないわな。

この際、壊した事はポイして気分転換に町に行こう！

・・・し、しむあつつああああ！！（しまった！）

金な~~~~い・・・どうしよう！！

そうして城をさまよって数分後！

目の前には『宝石庫』・・・。

にやり~~~~ん

こそこそつと入って金を取る！！「何してんの〜千秋君」っちい

「何もしてないよ」

金目のもの、誰にもばれずにゲット！！

11話に続く！！！！

勇者召喚祭！！！勇者はウザい！！の11話（前書き）

あれ！？いつの間にか10話越えてる！？

まあいいや。とにかく、

頑張ります！！！！

## 勇者召喚祭！！！勇者はウザい！！の11話

所変わって町の中。

・・・もう何処もかしこもファンタジー・・・。  
中世ヨーロッパのまちなみだ・・・。

そうだ！今日は暑いし、カキ氷を売ろう！

金を作って損は無し！これ、じっちゃんの名言！

・・・皆、盗みはいけないよ（おい！）

今日は暑いから結構売れた！

今は金もちもち！！イエーイー！！

つと適当に壊れたところで、まず言わなきゃいけない事がある。

・・・なんで日本の金（旧）なんだあああああああ！！！！  
ここ異世界だよな！？なんで『円』なんだよおおお！！

・・・と、聞いてみたところ

『前の勇者が「お金はこれでない」と！」って言って変えたからです。

『

・・・らしい。

二百年前って前の世界ではついこの前と言うことになる！？！？！？

・・・まあいいか。

問題はその後勇者はどうなったかだ。

聞いてみたところこの世界で骨を埋めたらしい・・・。

つまり、もとの世界に戻っていいのだ。

俺達はある世界に戻るのだろうか。

・・・無理だったな・・・。

ん？何か祭りでも始まるのか？

周りを見渡すと、人々だらけ。

あっそうか！勇者召喚祭りだったんだっけ？

・・・って、俺も出るんじゃないか！

早く戻らねば!!

シュビ!

いきなりだが・・・。

「王の御前であ~~~~る!!!!」

おおぅ・・・。野郎どもに見つめられても・・・ウブッ吐きそう・・・。

「そなた等が新しき勇者だな?」 王

「はいそうです!」 陸

はい!?!なんでイケメソ(氏ねええ)が答えてんの!?!

「俺は違う」 千

「なに?」 王

俺は面倒事がきらうず。(嫌い)

「こいつは勇者じゃなくて付き人です」 陸

だからなんでイケメソ(氏ねええ)が答えてんの!?!?

12話に続く!!!!

勇者召喚祭！！！勇者はウザい！！の11話（後書き）

チアキ ん？なんだこの紙。

ユキチ どうしたの？千秋君

チアキ なんか見覚えのない紙が落ちててさ

リクオ ほう？見してみる。

チアキ おう・・・って！何でお前がいるんだよ！！

リクオ いやあ、本編では出番が少ないんだ。

だから作者と交渉してここに出させてもらっているんだ。

チアキ いやいや、俺とお前本編では邪魔な存在どうしなんだぞ！？

リクオ それでも出させてよ！作者はほぼ一人称しか書けねえんだ

ぜ！？

それに結城だつてほとんど本編出てねえじゃねえか！

ユキチ そういえばそうだね

フタリ 『軽ッ！！』

チアキ ……ま、まあお前の言いたいことはよく分かったから、

そろそろ本題にはいろう！？

リクオ おおつすまない・・・で？

チアキ ええつと？

『今後からは、今溜め込んでいる小説の主人公をゲストに  
後書きもしくは前書きにこのコーナーを進めます。』

リクオ なん・・・だと・・・！？

ユキチ そんなことしてるより早く続き書いたらどう？作者？

チアキ お、おい！？「」が抜けてるよ！？

ユキチ ……呆れて何も言えないや。

リクオ ゆ、ユキチさん！？そ、そこまで怒らな・・・

あ、いや、なんでもないです・・・。

ユキチ ちよつと殺つてくるよ

フタリ 『戻つてない！？』



無視っていけないと思うんだ・・・。な十二話（前書き）

やっちゃまった・・・

どうしよう~~~~~・・・:;:;、

## 無視っていけないと思うんだ……。な十二話

「そうか。では諸君等の健闘を祈る」

何だかんだでおわっちった。

え？途中経過？ほっといてくれよ……。

まず、訓練がてらにバラバラに町を救って来いだって。（一応、説明はするんだね）

めんどいって言ったらガン無視されて、

「分かりました。この勇者めにお任せを」

とかほざく奴が居る。

次に、その後魔王退治に出よだって。

勝手に決めんな！！って言ったらまたガン無視されて、

「分かりました。この勇者めにお任せを」

とかほざくヴァカがいる。

最後に、質問は？だって。

（魔法とやらで）帰れる方法はあるのか！？って言ったら

「在るかもしれない。正直分からぬのだ。」

って言われてふざけんなって言おうとしたら、

「私はこの世界に残るので気にしないで下さい。」

「うむ。わかった。」

とかほざくクソツタレとクソツタレがいる。  
んで、

「他に質問があれば会議室に来なさい。」

って言うクソツタレ・・・。

酷くない！？これ！イジメジャン！

つとまあそんで冒涇に戻る

ぜつつつつつたいに文句言ってやるコンチクショー！！  
んでお開きになった後

がちや

「うむ？・・・また君かね・・・。」

「いい加減にしるよ・・・爺さん・・・。」

「いい加減にしてほしいのは君じゃ

勇者らしからぬ態度をとってばかりでまったく使えなさそうな付き  
人ではないか」

「付き人じゃあない！それと、人の人生潰しておいて何が使えなさ  
そうだ！！」

「何じゃと？」

13話に続く！！！！

無視っていけないと思うんだ……。な十二話（後書き）

次回、シリアス直行か！？

んなわけねえ！！！（なんかごめんなさい）

次回は飛ばしたって構わないですよ！！（本当）

チアキ じゃあ書くなよ……。

俺が中二病患者になってんじゃん……。こいつじゃあるまいし……。

リクオ ……なんで俺を見るんだ？？

ユキチ ……さくしゃ？

チアキ 漢字を忘れてらっしやる！？

リクオ これは恐い……。ガクガクブルブル

作者 ごめんなさい！今日はゲストが来てるんで、これで簡便！

ミライ どうも、『白の国』の未来です。

なぜ呼ばれたのか分からないのですが？

チアキ なんと！？

リクオ 多分、作者が未来さんに言ってなかったんだろう……。

あ、俺は陸雄と言います。よろしく！

ミライ あ、よろしく。

リクオ こいつが千秋でこいつが結城って言います。

フタリ 『なぜお前が言う（んですか）！』

ミライ ははは、よろしく。

パアアアアアアアアア……。

チアキ ご、後光が……！

リクオ ま、眩s……！

ユキチ かつこい……！

こうして、目をつぶされたので一時中断！！

チアキ 目が・・・目がああ・・・！

次回に続く？？

この話は無視してもいいよ！じゃなくてもむししてええ！！（前書き）

かつとなつてやった・・・。

海より深く反省しております。

山より大きく後悔しています・・・。

・・・はい・・・。

この話は無視してもいいよ！じゃなくてむししてええ！！

俺は少なくとも満足してた。

学校は嫌だが、友達とバカやって

笑って、怒って、楽しんで。

普通の暮らしで満足してた。

ユウキチも多分いや、絶対に思っていたはずだ。

そうした人生をこの男、この世界が潰したんだ。

許せるはずないだろ！

何で俺は、ついでで呼ばれたんだよ！！（あれ？）

そもそも全部ユウキチが悪いんじゃない？

ってえ、そうじゃないだろ！！

「向こうの世界ではなあ、友達がいて、普通の暮らしがあって、家族がいて。

それだけで満足だったんだよ！！けれどお前等のせいで全て潰されたんだよ！！

お前等の都合で人の人生めちゃくちゃにすんなよ！！！！」

「だが、わたちはそうするしか魔王に太刀打ち出来ぬのじゃ！！政治も進まぬし、勇者の存在が必要じゃったんじゃない！！」

「そのために人生潰されたのかよ！俺は！！」

ここはすでに腐っていたのか・・・。

まるでイケメソ（氏にさらせええええええええええ！！！！）みたいだな！

「勇者の存在にしがみ付くな！！この世界のこの国はお前が背負う国だろ！！」

自分たちで乗り越えてこそその自分たちの国だろ！！  
んでもって一人じゃないんだよ！！あんたは！！」（なにこれ、何  
の茶番？）

「？」

「他に、家族が居る！武官が居る！文官が居る！  
そして、国民も居る。」（くさ！！！）

「！！！」

「一人で背負う訳じゃあないんだよ。  
この国に居る皆があんたの味方なんだろうが。」

「……。」

「あんたは出来る！けれど始めようとしていないんだよ。  
創めれてからこそ出来るんだ」

「わしは出来るのか？」

「あんたにしか出来ない」

「そうか・・・先ほどの発言、申し訳なかった……。」

こう言ったらいけるはず！！（おい！理想かよ！！）よし、言っぜ！！  
14話に続く！！！！

この話は無視してもいいよー！じゃなくてもむししてええー！（後書き）

すぐに次回を出しますー！

あんだけ言っといてこうなった・・・の十四話（前書き）

前回のはすいませんでした・・・。

・・・ではじつに・・・（・・・）

## あんだけ言つといてこうなった……。の十四話

まあ色々あつて、王にこれから勇者を召喚するなと言っておいた。  
あと殴られた。（わお）

召喚するとしても緊急時で、何とか時間を稼ぎ強くなってからでは  
なければならぬ。

とも言つておいた。こ、これは本当に緊急時のみだからな！つと  
しつかり釘も刺しておいた。あと殴られた……。 （おいおい）  
そして、その代わりに少しだけ勇者業やってやると言うことになっ  
た……。 あと殴られた。（おい）

……。あれ？

結局やる事になつてんじゃん！

アディオス！俺の平穩！フォーエヴァー……。

チクシヨオオオオオオオ！

S I D E   O U T

S I D E   陸雄

あのチアキとかいう奴め……。ふざけんな！！

カス過ぎるのは分かるがワーワー騒ぎやがつて！

俺の楽しむ世界で潰されて死ね！！

つとと、そーいや明日は別々に町を救いに行くんだつたな……。

かわいい子がいてゝ！その子を助けてゝ！んで、俺に恋するゝ！

そして、ハゝレムが増えるつふふふふははwww

あゝ明日が待ち遠しいなゝwww

今日『も』エリーちゃんとマリーちゃんと一緒に寝る！

前の世界とは大違い！！！！はははははwww

今日は寝かさねえz（ry

SIDE OUT

SIDE 結城

つい眠っちゃって話を聞いていなかったら、終わっちゃった・・・。

後でサンちゃんとアーチエちゃんに聞いたら呆れた顔で、

『聞いてなかったのですか？私たちは明日、救助要請の出ている西町に行くですよ。』

そこだけが人を治し、魔物を倒すのです！』 サ

って言われたよ・・・。

何か凄い話になっちゃったね！

だから千秋君に相談しようとか千秋君が何処にいるか聞いてみると、

『あの者に在ってはいけません！』 サ

『無礼な人に、お兄ちゃんは会わせないから！』 ア

ってさ・・・。

千秋君、一体何をしたんだろ？

って明日に備えて早く寝なきゃ！お休み・・・zzz

15話に続く!!!

あんだけ言っというてこうなった……。の十四話（後書き）

チアキ 見苦しいもん見せてすいません……。

ミライ ああ……。いいよ、うん、大丈夫。

こっちの医療用スキャナで治せるから。

ユキチ ええ！！千秋君、病気だったの……？

チアキ ち、が……う！！俺はどこかの誰かさんとは違うのだ！！

リクオ ……。なぜ、俺を見る？？……。ああ、そうか。

俺の凄さにやつと気づいてくれくれたのか。

チアキ ちげ……よ！！お前よか俺は大丈夫だってえこと！！

ユキチ チアキく……ん手紙が来てるよ？

チアキ んだと！？何々？

『白の国って続きいつやるん？』だって……。

ユキチ まず、作者を殺してくるね

フタリ （（恐！！！！））

ん？だれ？え？あ、ちよ……………  
……………

ギエヤアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！

## ファンタジーだなあーとしみじみ思う……。の十五話

はい！毎度毎度おなじみの千秋です。

朝起きたらロープで押さえ込まれて拉致られてた……。

・・・あるええ？展開速度おかしくない？と思った人、今すぐスクワット三十回やれ！

そして罪人の様に扱われてみる！！皆から哀れみの目でも見られろ！！

すぐに泣きたくなるぞ！！！！

え？そんな扱いを受けてたのかって？……そうなんだよ……。

泣いてはないけどな……。

つか話しているうちに目的の町についた……ん……だけ……ど……。

ぎゃああああおおおおおおおおおんんん！！！！

・・・はい？ニホンゴデハナシテクダサイ？

「皆……！！やつと逃げれるぞ……！！」

「撤退だ……！！化け物（竜）なんかとまともに戦っていたら死ぬぞ……！！」

「市民の皆さん……！！早くこの馬車にお乗りください……！！」

えあ？なにこれついていけない。

「付き人様……！！竜を倒してください……！！」

んなもん無理じゃあああああああああ……！！

「この月夜の町を救ってください……！！」

前の勇者が名付けた町だなここは！！てか無理無理無理無理無理無理無理無理mるいrmりう！！（壊れた）

んなもん無！理！

俺の我流剣術はほぼじつちゃんの教えてくれた技で、あんなに出来たのは久しぶりだったんだよ！

つまり！高校生になってからほとんど練習をやっていない！！（ドド~~~~ン！）

そんでもってでか過ぎるんだよ！竜が！！

約大人の人の身長×3倍（メートル）あるんだぜ！？

無理だつつうのぶひくお！？！？！？

俺を拉致った人に蹴り飛ばされた・・・。

あ~~~~あ、こつちを興味津々に見てるよ・・・（・v・;）

ぼ、ぼくはオイシクないんだな、ん、これが。

・・・は！！錬金術があつたじゃないか！！

幸い、ここは血の海じゃん。

剣山生やして穴だらけにしちやる！！

「いくぞおおおおおおお！！！！」

がおおおおおっおおおおおおおおおん！！！！

パチン！（両手合わせて）ドン！（地面に手をつけて）バチチチチチチ！！（錬金！！）

オンドリヤアアアアア！！食らえ！！竜！！

ギヤオオオオオオオオオンンン！！！！

やった！！！！倒した！！！！倒したぞおおおおお！！！！」叫んじま  
った！あは！

っ！グロー！！やべっ！吐きそう・・・。（かつこ悪）  
16話に続く！！！！

結城も頑張る！！！十六話（前書き）

お久しぶりです！！

やっぱり言われると思っていた感想がきました！

やっぱりワードから移したものは意味わかめですよね・・・。  
それでも書かせていただきます・・・？

・・・で、できる・かなあ？

## 結城も頑張る！！！！十六話

SIDE 結城

千秋君が逝っちゃった……じゃなくて、行っちゃったよ  
今、一番危険な北町の救援に千秋君が……。  
あれ？何で縄でグルグル巻きになっているの？千秋君？

「あの、そろそろ西町に出発ですよ？」 サ

なんですと！早く用意しなきゃ！って出来ていましたね……。

「分かりました、それじゃ出発！」 結  
「待って、お兄いちゃ〜ん！」

ん？この声は？

「置いてかないから慌てないで、アーチエちゃん」 結  
「ん、しょつと……ハア、ハア、ハア」 ア

「んもう。あ・れ・だ・け・遅刻しないようにと言っておいたのに・  
・。」 サ

……この光景を見て、少し頬を緩める。平和だな。  
それに気づいたのか、サンちゃんがそっぽを向く。

「頬が赤いよ？風邪なら休んだほうが……」 結  
「いえ！ただ、大丈夫でしゅ！」 サ

・・・大丈夫かな？？

馬車で移動して十数分、ついに西町『日昼』に着いた。

北の月夜で戦闘して傷を負った人たちの避難所となっていて、みんな傷だらけ。

よし！！！！

「傷の酷い人から来てください！すぐに治療します！」

神様から貰ったこの魔法で皆を助けるぞ！

ここは僕の戦場だ！！！！いくぜ！！！！

「こいつを助けてやってくれ！」

「ばっちやを助けて！」

「腕が！！！！！」

「よし、アボ～～ン」

「わ！治った！？」（すげえ）

「ばっちやが走った！？」（ええ！？うそん！？）

「腕が繋がってるう！？」（もはやチート・・・。）

このまま治療しまくるよし！！じゃあね！

・・・後に異界の名医師と、その名を轟かすのであった。

17話に続く！！！！

結城も頑張る！！！十六話（後書き）

間違いがあればジャンジャン言っして下さい！

・・・え？この作品自体が間違い？？

・・・すいませんでした・・・！！

次回こそ後書きのお話しますね！！

**勇者の伝説!! な十七話(前書き)**

すいません・・・。

テストで遅れてしまいました・・・。

あ、もう見てもいいですよ？

# 勇者の伝説！！な十七話

SIDE  
陸雄

と、言うわけで東町に向かう。

エリーちゃんとマリーちゃんは、馬車の中で熟睡中ww!!寝顔がとっても可愛いww!!

はっ！いかにかん！起こしちゃうところだった！静かにしなきゃ。

くそれで、勇者様の世界ってどんな世界なのですか？>

<それはね・・・>

今ひそひそ声でエリカ姫をこうりや．．．ゴホン！とお話中なんだ！  
このままハーレムを作ってやるぜ！！

東町に早速着いた。え？町の名前？ちっしかたねえ、教えてやるよ。  
朝陽あさひってんだ。って誰に言ってるんだろ・・・？

まあいい。まず、ゴブリンが町を襲ったらしくゴブリン退治をしてもらいたいだよ。

助けるついでに魔法を覚えて魔王退治に備えてもらいたいらしい。

「魔法と言うのは、魔力を外へ出すときに言葉で変換するんですよ。例えば、『火よ、この指に灯れ火よ、この指に灯れ』」 エリカ

すると、エリカちゃんの人差し指にライターくらいの火が浮いていた。

すっげええええええええええ！！魔法だ！！よし！

実際にやってみよう！！体の中のナニを外に出す感じで、

「炎よ、前方に居るゴブリンを焼き尽くせ!!」  
ゴウウツ!!!!!! 陸

ピキヤアアアアアアア!!!!

ははははははは!!!!ザマアwww!!!!

「凄いです・・・。」 エリカ

「凄い魔力の量・・・。」 マ

「こんなにいるゴブリンを一度に・・・。」 エ

はははは!!!!みんな(町の人も含めて)が尊敬の眼差しで見てくる。  
ははははww!!!!困ったなww!!!!

この日、俺の為に町で祭りが開催した。

周りから勇者コールが起こる。ははww!!!!最高!!!!めっちゃいい気分!!!!

右にエリーちゃん、左にマリーちゃん、背中から抱きつくエリカ姫  
ww!!!!

両手に花以上だぜwwww!!!!!!

・・・その後実は、ゴブリンの焼死体に町の人焼死体も発見されることになる。

その町の人の焼死体は全部ゴブリンから離れた場所にあったのだ。  
そして勇者が国を出て、旅に出たあと問題視になる。  
今は誰も知らない事実。果たして勇者、陸雄はのんきにいられるのだろうか?

18話に続く!!!

## 勇者の伝説！！な十七話（後書き）

ごめんなさい・・・。

作者 勇者君はあらかた潰しますからね・・・。

ユキチ 僕ってあんまり目立たないんだね・・・。

チアキ ユウキチ！そんな暗くなるな！なんか、めっちゃ怖いから・・・！

リクオ・・・俺は・・・悪役・・・なのか・・・？

チアキ い、いや、違う（と思う）からそんな

「燃えた・・・燃え尽きたぜ・・・真っ白にな・・・。」  
みたいになるな！！

ユキチ えゝ？悪役じゃないの？？僕はグズで間抜けな悪役勇者君だと思ってた！

リクオ うぐうう・・・！！心が・・・痛・・・む・・・バタリッ

チアキ り、りくおおおおお！！！！陸雄が！ってか！ユウキチ！  
！キャラが壊れてる！！

しかもめっちゃ笑顔！？！？！？

ユキチ ん？？何かな？？出番の多いムシケラ君？？ああ、ごめんごめん、千秋君？？

チアキ・・・もしかして・・・怒ってらっしゃいますか？？

ユキチ んな訳ないじゃん？あはは！

チアキ・・・それじゃ、その、鉈はどこから・・・？

んでもって、何に使うんだ？

ユキチ 「ひ」から始まって「わ」で終わって途中に「なみ」って言葉が入る田舎のある女の子から貰って来たんだ

それで、どう使うのかは・・・

こう使うんだよ

全員 ぎゃあああああああああああああああ……！！

！！！！！！！！！！

作者 じ、次回は、村人たちの意見です。どうぞ、期待せずに見て  
つて下さい！

ユキチ 死んじゃえ

作者 は、話せヴァ分かる！

ユキチ いや

グリュウアアアアアアアアアアアアアアアアア……！！！！！！

！！！！！！！！！！

一方、町人は・・・な十八話（前書き）

はい、あけましてつてか遅いですね、はい・・・。  
遅くなったのは「テ」から始まる拷問に等しいもののせいです、はい。

では、どうぞ!!

一方、町人は……。な十八話

SIDE 町人A

い、今起こったことを在りのまま話すぜ……？

勇者の付き人のやる気無しの変な奴が戦いたくねえとかいって  
たから蹴りおとして、無理やり戦わせたんだ……！！

そしたらなんと！お祈りしたかと思っただけならその両手を地面につけた  
んだ！！

そこまではよく分かる。問題はその後だ！

そしたら針山が生えてきて竜を針の筵にしたんだ……！！！！

竜と言うものは本来、最強の魔術師軍団二十人でやっとなぐらい強  
いんだ！！

え！？信じられない？俺もだよ……？

俺だって意味わかんねーよ……！とにかく……！！

あいつはいい意味でやばい……！！

SIDE OUT

SIDE 町人B

俺は今！感動している……！！

勇者の付き人の何か眠そうな奴が来たとき、正直「終わったな……  
この町」と思った。

だがしかし！重症のもう助かりそうのない奴を一瞬で治しやがった  
んだ……！！

そいつ泣いて喜んでたよ。

あれこそ勇者！って思えたな……！！

それに、次の人！……！

もう言うこと無し！！今回も召喚はせいこうだな！！  
・・・本物の勇者は何をしてるんだろう・・・？

S I D E   O U T

S I D E   町人C

・・・なんじゃありやあ・・・。  
その一言に限る・・・。

私たちのために敵を一掃してくださった・・・。

しかし、あれは何なんじゃ・・・？

一撃で全てを根絶やしにしようた・・・全てを・・・。

敵も・・・味方も・・・。

燃える、田畑・・・。

そして・・・わしも・・・。

ああ・・・これが・・・死・・・。

勇者様の・・・ためなら・・・ば・・・。

・・・すまぬ、皆・・・わしの分、生きてくれ・・・。

・・・あの頃の・・・皆に・・・会え・・・る・・・。

S I D E   O U T

19話に続く！！！！

一方、町人は……。な十八話（後書き）

作者 短くてすいません。。。

チアキ　ありがとう、作者。この怪我じゃ今回出れなかつたぜ……

リクオ・人殺してんだ。

もう、もどれないのかな……。

ユキチ みんな、どうしてそんな怪我してんだろね？！

チアキ おもに「ユ」が最初に付く……リクオデス……。

リクオ　なんでだよ！？本編では悪役でいいけど、ここでは普通にさせてよ！！

この怪我は「ユキセ・・・階段でジャンピングドゲザッ  
 テマシタ・・・」。

作者 あれ？どうなってるの！？ユキチが悪いんでしょ！？

フタリ あ・・・。

ユキチ ええ？なんでぼくが悪いのかな？かな？

作者 絶対病気にかかってる・・・！！

二人とも逃げ……ってもうねえ！！！！！

ユキチ　じゃあ、とどめね

作者 ははは、最近俺死んでばっかじゃね????

ガチヨオオオオオオオオオオオオオオオオンンン！！！！！！

!!!!!!

さらば！！嫌な思い出だらけの街よ！！な十九話（前書き）

すいません！！更新遅れました！！

## さらば！！嫌な思い出だらけの街よ！な十九話

やつほー！！

千秋だよ！キラッ・・・オエッ・・・。

何か王様が魔王の部下らしきものの位置が判明したんだと。

んで、そいつを捕らえて情報を掴み、ついでに魔王を倒すたびに出てこいつてさ。

・・・急すぎんだろ！！

おかしいよ！？って言ったら、

「諸君等の戦績は聞いておる。もう十分なのでは？」

っと王さんが言ったからである。

んで、明後日出発らしい・・・。

早！！！？って思った君、それが正しい反応だから安心して。

こいつ等が異常なだけだから・・・。

つゝわけで、今夜も勇者からの嫌がらせ（？）を受けつつ部屋を指し、泥のように寝ることを決意する。

あいつ、時間があれば俺になんかしてくる。

んでもって、女性からの言葉の暴力・・・。

このままじゃあ死んじゃうよお！！

・・・。まあ、ユウキチに回復魔法をかけてもらえば全回復なんだからどね！

さあ！みんなのお待ちかね、出発の時間です！！

俺にとっては拷問以外の何者でもない時間です（血涙）！！平穩がほしい！！

荷物は刀、食料、水・・・位しかない・・・。

ん？馬車がある！いかにも勇者らしい！

つてあれえ！？あの馬ゼル伝のエナじゃないか！！？

おおおお！！！！テンション上がってきたあ！！！！

「すいません！馬に乗る者が急に休んでしまい、現在代わりを・・・

」

「なら、俺の付き人に任せよう。では」

ぼん

ん？何言ってるのこいつ……。んでもってなぜ俺の肩に手を置いたんだ？

「頼んだよ？」

「はあ？何で俺何だ？」ちよつと早くしなさいよ！！使えないわね！！」・・・はい・・・」

はい、テンションが25、600下がった・・・。

まあ？エポに乗るんだから？別にいいんだけどね・・・。

勇者はサササつと馬車に入りいちゃつきやがった・・・。

リア充爆発しろ！！！！！！！！

・・・。何だかんだ言ってこの街を出て、新たな町に行くんだったな・・・。

何かくるものが・・・無いな。アレ？ナンデ？

思い出せばこき使われた日々、訓練の為に、生きる為に頑張ったこと・・・。

いい思い出が・・・ない・・・！！

勇者はいちやつきピンク色の生活を、ユウキチはいちやつきはしてないが両手に花・・・。

そして俺はおっさんたち・・・。

「理不尽だあああああああ」

20話に続く!!!

さらば！！嫌な思い出だらけの街よ！な十九話（後書き）

チアキ やつと街いや、城から出られたか・・・。

リクオ ・・・なんか、ごめんな・・・。

チアキ いや、いいぜ？小説なんだから・・・。

リクオ ・・・そういえば、ユキチの姿が見えないんだが・・・？

作者 それについては次回のここに、新たにゲストさんが来るから  
迎えに行つて貰 ってるんだ。

リクオ へえ・・・また新しい人が来るのか・・・。

チアキ どんな人が来るのかな？

作者 まあ、気長にまとうや！

つゝ訳で次回をお楽しみに！！

リクオ お楽しみに！！

チアキ・・・あれ？なんかまともに終わっ  
た気がする・・・！

新たな町！！今日こそはグッスリ寝たい・・・。な二十話（前書き）

遅れました！すいません！

新たな町！！今日こそはグッスリ寝たい……。な二十話

こんにちは皆さん、千秋です。

俺はいい天気のもと、伝説の馬、ポナに乗って馬車を引いてる最中だ。

ああ、憎い。こんなにも俺のテンションが下がってんのに、勇者は昼間なのに気にせずいちゃいちゃ。

ユウキチは気遣ってくれてるけど、両手に花。んで、女性からの言葉の核兵器……。

そんな俺の精神を削るような毎日なのに太陽はさんさんと俺を照らす。

そんな太陽に俺は睨み付ける。……。はあ……。。

ん？あれは？町？町なのか！？やった……。！

「町だあああああ……。！」

ああ、叫べなくなるほどしぼんだか……。だが、今日は一人でゆつくり出来そうだ……。！

だってほら、町なんだぜ？宿屋はあるだろう！これで勇者とおさらばできる……。！

もうあんな夜は嫌だからな……。！

で、馬車を置かせてもらったのだが、お金を出すのがめんどい。（小銭だらけ）

そのときに必要以上に俺に見せつけながらその親父さんに一万円を渡し、

「釣りはいらないぜ？」

ってかつこつけてる馬鹿が居る。俺にはどっさり金あるけどあまり見せたくは無い……。

んで、フフンって笑ってるこの勇者（暴）にどういう反応をしたらいいのだろう……。

いつもなら心の中で「馬鹿だこいつ（笑）」って言ってるけどもう気分が何もかも消費したからな……。

「なあ、勇者。」

「勇者様だ。」

……こいつ……。

「勇者……様……、俺らは別々ところで泊まろうぜ？」

「ああ、そうするつもりだ。貴様は黙れ」

……こいつ……！！

決めた。いつか殺す！と。

そのあと、俺は宿を探した。どれもこれも高級高級……。

確かに王国の近くの町だからってこれは無いだろ……。テンションただ下り……。

とそこでふと見つけてしまった！いかにも安そうなお店を！

そしてその宿の一室を借りた。ああ、今夜はいい夢が見れそうだ……はあ……！

「俺も彼女、ほしいな……。」

哀れな主人公千秋は、こうして今日一日を終えた。のだが、

あの神は「少し面白みが無いな」・・・えい  
「なんて言いながら  
少しやっちゃったのだ！」  
千秋はそれをまだ知らない・・・。

21話に続く!!!

新たな町！！今日こそはグッスリ寝たい……。な二十話（後書き）

ユキチ 今回のゲストは咲十君です！

サキト 初めまして！つてぎゃあああああああ！

リクオ うお！？何だ！

チアキ おい、何もない所でこけんよ……。

ていうか、なんだこのラストは！俺に何が起こるんだよ！？

サキト ……なんで軽く無視するんですか……。

ユキチ もう、みんな〜！新しいゲストが来たんだからそこまでに  
して飲もうよ〜！

作者 いや、のめれねーだろ。年齢的に。

ユキチ ちょっとうるさいコバエがいるから退治してくるよ。

あがああああああ！！グキリッ！

ユキチ じゃあ、みんなで飲もう！！

フタリ せ、せゝの。

ヨニン かんぱゝい！

サキト チアキさん、いつもこんな感じなんですか？

チアキ ……うん（血涙）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2598o/>

---

～ あっぱれ、俺の異世界譚～

2011年4月3日20時11分発行